

○ 横沢さんは、国語の授業で随筆を書き、友だちと作品を読み合いました。横沢さんは、助言のいくつかをもとに、自分の作品をよりよいものにしようと考えました。

次の【横沢さんの随筆】を読み、あとの問いに答えましょう。

【横沢さんの随筆】

ア 桜が咲き始めると、うきうきしてしまう。毎日でも外に行って、桜をながめたくなる。そんなふうに私は育てられた。

祖父は、桜の季節になると、必ず私を外に連れていった。

※1 場所は決まっていた。磐井川の堤防だ。

桜の名所はたくさんあるが、ここの桜並木がおれには一番だ。

そういつて、祖父はニカツと笑った。

祖父からは桜の話をいろいろと聞かされた。

堤防に桜を植える理由。

※2 ソメイヨシノの寿命。

お花見の歴史。

そして、桜を題にした和歌や短歌について。去年は、筆ペンと紙をもつて、二人で短歌づくりにまでチャレンジした。

聞きもせず 磐井河畔の桜花

岩手の中に かかるべしとは

※3 サイギョウさんのサルまねだ、サルまね。祖父は、自分で書いたのに、おせながら大笑いしていた。

祖父が亡くなった今年は、ひとりで桜を見に出かけた。

花は、いつものように、きれいに咲いていた。

この古い桜並木は、あと数年のうちに切られてしまう。堤防を広げる工事が決まったのだそうだ。

イ 祖父との思い出がこわされてしま

うようで、とても悲しい気持ちになった。すると、不意に短歌を作りたくてたまらな

くなった。祖父からうつされたのは、どうやら桜好き

桜花 ひとりながめる 磐井川

わらう祖父なし うたう祖父なし

※1 「磐井川」…栗駒山から一関市を通り、北上川に流れこむ川。

※2 「ソメイヨシノ」…桜の一種。現代の代表的な品種。

※3 「サイギョウさん」…西行。平安時代、鎌倉時代の歌人。「聞きもせず、束稲山の桜花、吉野の外にかかるべしとは」と岩手の桜をほめたたえる歌をよんだことがある。

一 横沢さんは、アの文章を次のように書きかえました。

おじいちゃんの桜好きは、あなたにうつったのね。母は笑った。

そうかも知れないなあ、と思う。

横沢さんはどのような助言を生かして書いたのでしょうか。1から4までの中からあてはまるものを二つ選び、□に番号を書きましょう。

1 長すぎる文章を短くしてはどうか

2 読み手を引きこぶ書き出しにしてはどうか

3 自分の考えをはっきり伝えてはどうか

4 全文の始めと終わりがつながるようにしてはどうか

二 横沢さんは、イの文について、次のような助言をもらい、文を書きかえることにしました。

「悲しい気持ち」と書いていますが、横沢さんの随筆を読んでもみると、もっと深い思いがあるのではないかと感じました。直接「悲しい」と書くのではなく、読む人が横沢さんの気持ち进行想像するような表現にすれば、もっとよい作品になるのではないですか。

(1) 「悲しい」気持ちを読む人に伝えるほかの表現を、【例】を参考に三つ以上書きましょう。

【例】胸が苦しい

・

(2) (1)で書いた表現を使い、イの文を書きかえましょう。

組

番 氏 名